

議案

卷一

六印八繙越金一藏寫ラ示ス

一、日本銀行保借金額トハ本審ニ依リ納付金ヲ上納セシメ且實納ト同様ノ而當之者ニテ認タル後日本銀行ノ自由返乞ニ委シ積立金、復算賞典全及交際費之縛、越金、增加ニ充當シ得ヘキ金額ヲ謂フ

三、比較ハ本案ニ依ル場合、利益区分、実績ニ付スル減額ヲ示ス

(三)

第一 兌換銀行券發行制度ニ關スル件

一、兌換銀行券ノ保證發行限度ヲ十億圓ニ擴張スルコト

二、兌換銀行券ノ制限外發行ハ十五日ヲ超エテ仍其ノ發行ヲ繼續セント
スルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ要スルコトシ日本銀行ハ十五日ヲ超
エタル制限外發行額ニ對シ年三分ヲ下ラサル割合ヲ以テ制限外發行
稅ヲ納ムルコト但シ其ノ割合ハ時々大藏大臣之ヲ定ムルコト

第二 日本銀行納付金制度採用ニ關スル件

一、現行明治三十二年法律第五十六號ニ依ル發行稅（制限内發行稅）一例
度及政府當座預金利子上納制度ヲ廢止シ納付金制度ヲ採用スルコト

第一 東洋銀行三十二年六月二十六日、總務部會議事記
第二 上本總理等社團開設、公債ニ付スル件
第三 政府開設公債ニ付スル件
第四 政府開設公債ニ付スル件
第五 政府開設公債ニ付スル件
第六 政府開設公債ニ付スル件
第七 政府開設公債ニ付スル件
第八 政府開設公債ニ付スル件
第九 政府開設公債ニ付スル件
第十 政府開設公債ニ付スル件
第十一 政府開設公債ニ付スル件
第十二 政府開設公債ニ付スル件
第十三 政府開設公債ニ付スル件
第十四 政府開設公債ニ付スル件
第十五 政府開設公債ニ付スル件
第十六 政府開設公債ニ付スル件
第十七 政府開設公債ニ付スル件
第十八 政府開設公債ニ付スル件
第十九 政府開設公債ニ付スル件
第二十 政府開設公債ニ付スル件
第二十一 政府開設公債ニ付スル件
第二十二 政府開設公債ニ付スル件
第二十三 政府開設公債ニ付スル件
第二十四 政府開設公債ニ付スル件
第二十五 政府開設公債ニ付スル件
第二十六 政府開設公債ニ付スル件
第二十七 政府開設公債ニ付スル件
第二十八 政府開設公債ニ付スル件
第二十九 政府開設公債ニ付スル件
第三十 政府開設公債ニ付スル件
第三十一 政府開設公債ニ付スル件
第三十二 政府開設公債ニ付スル件
第三十三 政府開設公債ニ付スル件
第三十四 政府開設公債ニ付スル件
第三十五 政府開設公債ニ付スル件
第三十六 政府開設公債ニ付スル件
第三十七 政府開設公債ニ付スル件
第三十八 政府開設公債ニ付スル件
第三十九 政府開設公債ニ付スル件
第四十 政府開設公債ニ付スル件
第四十一 政府開設公債ニ付スル件
第四十二 政府開設公債ニ付スル件
第四十三 政府開設公債ニ付スル件
第四十四 政府開設公債ニ付スル件
第四十五 政府開設公債ニ付スル件
第四十六 政府開設公債ニ付スル件
第四十七 政府開設公債ニ付スル件
第四十八 政府開設公債ニ付スル件
第四十九 政府開設公債ニ付スル件
第五十 政府開設公債ニ付スル件
第五十一 政府開設公債ニ付スル件
第五十二 政府開設公債ニ付スル件
第五十三 政府開設公債ニ付スル件
第五十四 政府開設公債ニ付スル件
第五十五 政府開設公債ニ付スル件
第五十六 政府開設公債ニ付スル件
第五十七 政府開設公債ニ付スル件
第五十八 政府開設公債ニ付スル件
第五十九 政府開設公債ニ付スル件
第六十 政府開設公債ニ付スル件
第六十一 政府開設公債ニ付スル件
第六十二 政府開設公債ニ付スル件
第六十三 政府開設公債ニ付スル件
第六十四 政府開設公債ニ付スル件
第六十五 政府開設公債ニ付スル件
第六十六 政府開設公債ニ付スル件
第六十七 政府開設公債ニ付スル件
第六十八 政府開設公債ニ付スル件
第六十九 政府開設公債ニ付スル件
第七十 政府開設公債ニ付スル件
第七十一 政府開設公債ニ付スル件
第七十二 政府開設公債ニ付スル件
第七十三 政府開設公債ニ付スル件
第七十四 政府開設公債ニ付スル件
第七十五 政府開設公債ニ付スル件
第七十六 政府開設公債ニ付スル件
第七十七 政府開設公債ニ付スル件
第七十八 政府開設公債ニ付スル件
第七十九 政府開設公債ニ付スル件
第八十 政府開設公債ニ付スル件
第八十一 政府開設公債ニ付スル件
第八十二 政府開設公債ニ付スル件
第八十三 政府開設公債ニ付スル件
第八十四 政府開設公債ニ付スル件
第八十五 政府開設公債ニ付スル件
第八十六 政府開設公債ニ付スル件
第八十七 政府開設公債ニ付スル件
第八十八 政府開設公債ニ付スル件
第八十九 政府開設公債ニ付スル件
第九十 政府開設公債ニ付スル件
第九十一 政府開設公債ニ付スル件
第九十二 政府開設公債ニ付スル件
第九十三 政府開設公債ニ付スル件
第九十四 政府開設公債ニ付スル件
第九十五 政府開設公債ニ付スル件
第九十六 政府開設公債ニ付スル件
第九十七 政府開設公債ニ付スル件
第九十八 政府開設公債ニ付スル件
第九十九 政府開設公債ニ付スル件
第一百 政府開設公債ニ付スル件
第一百一 政府開設公債ニ付スル件
第一百二 政府開設公債ニ付スル件
第一百三 政府開設公債ニ付スル件
第一百四 政府開設公債ニ付スル件
第一百五 政府開設公債ニ付スル件
第一百六 政府開設公債ニ付スル件
第一百七 政府開設公債ニ付スル件
第一百八 政府開設公債ニ付スル件
第一百九 政府開設公債ニ付スル件
第一百二十 政府開設公債ニ付スル件
第一百三十 政府開設公債ニ付スル件
第一百四十 政府開設公債ニ付スル件
第一百五十 政府開設公債ニ付スル件
第一百六十 政府開設公債ニ付スル件
第一百七十 政府開設公債ニ付スル件
第一百八十 政府開設公債ニ付スル件
第一百九十 政府開設公債ニ付スル件
第一百二十 本銀行ノ重要ナル業務ニ關シ日本銀行總裁ノ諮問ニ應ザシムル爲日
第一百二十 本銀行ニ日本銀行參與會ヲ設置スルコト
第一百二十 改ムルコト
第一百二十 更ニ政府ニ納付スルコト
第一百二十 三、日本銀行條例第十條ニ依リ積立ツベキ金額ノ最少限度ヲ二十分ノ一ト
第一百二十 第三、日本銀行參與會設置ニ關スル件

論案

第一 兌換銀行券發行制度二關スル件

一、兌換銀行券ノ保證發行限度ヲ十億圓ニ擴張スルニ

二、兌換銀行券ノ制限外發行ハ十五日ヲ超エテ仍其ノ發行ヲ繼續セント

エタル制限外發行額ニ對シ年三分ヲ下ラサル割合ヲ以テ制限外發行稅ヲ納ムルコト但シ其ノ割合ハ時々大藏大臣之ヲ定ムルコト

、我現行發券制度ハ所謂屈伸制限制度ニシテ我國民ハ多年其ノ運用ニ慣熟シ創始以來ノ實績ニ顧ミルニ其ノ制度ノ基本ニ於テハ我國情ニ適應セルモノアリト認ムルヲ得ヘシ

ニ蓄積を増加出来、實地ニ應じて現行貿易額を以て外債償還
不敷費等の增加額へ相應に外債額を増加する事無事に外債

然レドモ現行一億二千萬圓ノ保證發行限度ハ我經濟界ノ發展ト正貨
保有高ノ現狀ニ照シテ低キニ過ギ我國產業ノ正當ナル取引ニ必要ナ
ル數量ノ通貨ヲ圓滑ニ供給スル上ニ不便尠カラザルヲ以テ此ノ際之
ヲ適當ニ擴張スルノ要アリ

現行一億二千萬圓ノ保證發行限度ヲ幾許ニ擴張スルヲ適當トスルヤ
ノ點ニ就テハ正確ナル算定ヲ行フコト頗ル困難ナルモ大体從來ノ通
貨發行ノ實績ニ鑑ミ且將來ニ於ケル通貨ノ需要量ハ自ラ增大スルコ
トアルベキヲ考慮スルト共ニ、正貨保有量ノ現狀ヲモ參酌シ十億圓
ト定ムルヲ以テ適當ナリト認メタリ

二、我國ニ於テハ月末、季末等ニ際シ決済資金需要ノ爲一時兌換銀行券
ノ增發ヲ見ルヲ常トスルガ、此等ノ一時的決済資金ノ需要ニ對シテ

ハ現行法ニ於テハ制限外發行ニ對シテハ年五分ヲ下ラザル税率ヲ

イテ以テ半々増額大減ト共ニ、直當の本計へ異然モ參照、十萬圓
會員貯入資糧ニ就キ且將來ニ付シハ當初ハ開港場ヘ賣リ餘大益水セ
入庫ニ歸セハ正解モ此與放利同也モ顧此則新キハナ大利無茶モ也。
既云一對ニ子萬圓入渠總額皆期滿モ期滿ニ被退ム或モ延許ナムモ
其事者ニ附隨不バ人娶テリ

此舉是ハ國會モ國債ニ背負不以主ニ不論然モ、ヤハ日暮ニ過ハ體ニ
給付未ハ未滿ニ攝セモ即半々放利未附有矣。且實モ小學民ニ發送セ
給付未ハ未滿ニ攝セモ即半々放利未附有矣。且實モ小學民ニ發送セ

ハ特ニ抑制スルノ要ナキヲ以テ保證發行額ガ一時右十億圓ノ限度ヲ
超過スルコトアルモ別段之ニ對シ發行稅ヲ賦課スルノ要ナシト認メ
ラル而シテ過去ノ實績ニ徵スルニ此等決濟資金ニ要スル兌換銀行券
ノ發行ハ大体十五日以内ニ解消セラルヲ以テ十五日以内ノ期間ニ
於ケル制限外發行ニ付テハ抑制ノ手段ヲ採ラズ右期間ヲ超エテ仍其
ノ發行ヲ繼續セントスル場合ニ付テノミ大藏大臣ノ許可ヲ要スルモ
ノトスルヲ適當ナリト認ム

次ニ現行法ニ於テハ制限外發行ニ對シテハ年五分ヲ下ラザル税率ヲ
以テ課稅スルコトトナリ居ルモ將來ニ於テ日本銀行割引歩合ヲ低下
スルノ必要ヲ生ズルコトアルベクスル場合制限外發行稅ガ之ニ對シ
過度ノ抑制トナラザル様制限外發行稅率ニ關スル規定ヲ改正スルヲ

適當トスベシ然レドモ他面ニ於テ苟モ保證發行ト制限外發行トノ差
別ヲ設ケ通貨ノ供給ヲシテ過度ニ陷ラシメザル様抑制セントスル以
上制限外發行稅率ハ相當ノ程度ヲ維持スルノ必要アリ依テ制限外發
行稅率ハ三分ヲ下ラザル割合ト改メ且大藏大臣ハ時々ノ狀勢ニ應ジ
テ適宜稅率ヲ定ムルコトスルヲ適當ナリト認メタリ

第二 日本銀行納付金制度採用ニ關スル件

一、現行明治三十二年法律第五十六號ニ依ル發行稅（制限内發行稅）制度及政府當座預金利子上納制度ヲ廢止シ納付金制度ヲ採用スルコト

二、日本銀行納付金制度ノ内容ヲ左ノ如クス

イ、日本銀行ハ事業年度毎ニ純益金ヨリ拂込資本金額ニ對スル年六分ニ相當スル金額及日本銀行條例第十條ニ依リ積立ツベキ金額ノ最少額ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スルコト

ロ、純益金ヨリ前記ノ金額及納付金ヲ控除シタル殘額ガ拂込資本金額ニ對シ年四分ノ割合ヲ超過シタルトキハ其ノ超過金額ノ四分ノ三ヲ貢ニ政府ニ納付スルコト

三、日本銀行條例第十條ニ依リ積立ツベキ金額ノ最少限度ヲ二十分ノ一ト改ムルコト

(理由)

一、日本銀行ハ我國ノ中央銀行トシテ特別ノ法規ニ依リ設立セラレタル國家的機關ニシテ其ノ資本ノ醵出ハ之ヲ株主ニ求メタリト雖モ單純ナル營利法人ニアラズ而シテ其ノ使命ヲ遂行スル爲兌換銀行券發行ノ特權ヲ賦與セラレ又國庫金ノ取扱等ノ事務ヲ掌リ此等ニ基ク利益寔ニ大ナルモノアリ、而シテ一方右兌換銀行券發行ノ特權ニ對スル報償トシテハ制限内發行稅制度アリ又他方國庫金ノ取扱ニ關シテハ政府當座預金利子上納制度アルモ共ニ其ノ制度不備ニシテ同行ノ負擔スルトコロハ其ノ特權及特權的地位ニ基ク利益

ト調和ヲ得サルモノアリ
先ツ發行稅制度ニ就テ之ヲ觀ルニ本制度ハ一定ノ稅率ニ依リ保證
發行限度内ノ兌換銀行券發行高ニ對シ課稅スルモノナルカ現在ノ
稅率ハ甚タ低クシテ日本銀行ノ受クル利益ニ比シ權衡ヲ失ヒ且其ノ
利益ノ増減ニ順應スルノ伸縮性ヲ缺ケリ、若シ此ノ缺陷ヲ匡正ス
ルカ爲現在ノ發行稅率ヲ引上ケントセンカ日本銀行ノ割引歩合ヲ
高ムルノ素因トナリ金融政策上不利ナルモノアルヘシ
次ニ現行政府當座預金利子上納ノ制度ニ依レハ一定ノ金額（昭和
七年度ニ於テハ一般會計四七〇〇〇〇〇〇圓、預金部特別會計一
五〇〇〇〇〇〇圓）以上ノ政府當座預金額ニ對シ年利率二分ノ利
子ヲ政府ニ納付セシメ居レリ、然レトモ政府當座預金ニ因ル日本

銀行ノ利益ハ發行稅率、兌換銀行券發行狀態、政府當座預金殘高及割引歩合等ノ如何ニ依リ異ナルモノアリ正確ニ之ヲ算出スルコトハ殆ド不可能ニシテ從テ一定率ノ預金利子歩合ニ依リ之ガ報償ヲ納付セシメントスルモ其ノ衡平ヲ期シ難キハ寧口當然ナリト謂ハザルベカラズ惟フニ日本銀行ガ本來國家的機關ナルニ顧ミ且其ノ營業自身ト雖モ國家ヨリ賦與セラレタル特權及其ノ特權的地位ト密接離ルベカラザル關係ヲ有スルニ鑑ミ日本銀行ノ全利益ヲ基準トシ其ノ一定部分ヲ政府ニ上納セシムル納付金制度ハ頗ル衡平ニシテ同行利益ノ増減ニ順應スルノ屈伸性ヲ有シ現行兩制度ニ比シ遙ニ勝レルモノアリト云フベシ

上述ノ理由ニ依リ現行發行稅制度及政府當座預金利子上納ノ二制

度ヲ廢止シ納付金制度ヲ採用スルヲ可ナリト認ム

二、日本銀行ノ定例株主割賦金ハ拂込資本金額ニ對シ年六分ニ相當スル金額ニシテ且日本銀行條例ニ依リ日本銀行ハ一定額ノ積立金ヲ爲スベキ義務アルヲ以テ、右ニ相當スル金額ハ純益金ヨリ優先ニ之ヲ控除シ其ノ殘額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付セシムルコトトシ純益金ヨリ前記ノ株主割賦金、積立金及納付金ヲ控除シタル殘額ニ付テハ拂込資本金額ニ對シ年四分ノ割合ニ相當スル金額ノ控除ヲ認メ其ノ處分方法ハ日本銀行ノ自由ニ委スルコトトシ右ヲ超過スル金額ノ四分ノ三ヲ更ニ政府ニ納付セシムルヲ適當ト認メタリ

三、日本銀行ノ積立金ハ現在既ニ資本金額ヲ遙カニ超過シ相當充實セリト認ムルヲ得ルノミナラズ兌換銀行券保證發行限度ヲ十億圓ニ

日本銀行ノ預金ノ上納制度ヲ廢止ス
擴張シ且制限内發行稅制度及政府當座預金利子上納制度ヲ廢止ス
ルトキハ日本銀行ノ純益金ハ甚ダシク増大スペク從テ日本銀行條
例第十條ニ依ル積立金額モ從前ニ比シ著シク巨額トナルヲ以テ同
條ニ依ル積立金ノ最少額ノ割合ハ之ヲ二十分ノ一ト改ムルヲ適當
ナリト認メタリ

第三 日本銀行參與會設置ニ關スル件

一、日本銀行ノ重要ナル業務ニ關シ日本銀行總裁ノ諮問ニ應ゼシムル爲日本銀行ニ日本銀行參與會ヲ設置スルコト

(理由)

日本銀行ノ機能ヲ發揚シ我國ノ經濟狀況ニ適應セシメントスルニハ單ニ此ノ制度ニ改正ヲ施スヲ以テ足レリトセズ其ノ運用ヲシテ一層時宜ニ適ハシメ殊ニ日本銀行ト金融界並一般產業界トノ聯繫ヲ緊密ナラシムルハ此ノ際最モ肝要トスル所ナリ、之ガ爲ニハ日本銀行ノ重要ナル業務ニ關シ常ニ各方面ノ有力ナル意見ヲ參酌シ得ルガ如キ制度ヲ創成スルノ要アリ依テ日本銀行參與會ヲ設ケ金融界產業界ノ代表者並學識經驗アルモノヲ選ヒテ日本銀行參與トシ日本銀行總裁

ハ重要事項ニ關シ諮詢シテ其ノ意見ヲ徵シ又ハ總裁ニ對シ意見ヲ陳述スルヲ得シムルヲ適當ト認メタリ

次ニ我國經濟界ノ情勢ヲ觀マスルニ、今日ノ如ク通貨ガ不足シ信用ガ收縮シテ居ツテハ產業發展ノ手段ヲ缺ク次第デアリマシテ到底其ノ振興ヲ期スルコトガ出來マセヌ。從ツテ金融ノ緩和ヲ圖リ、產業ノ正當ナル取引ニ必要ナル數量ノ通貨ヲ圓滑ニ供給スルノ途ヲ講ズルコトガ最モ必要デアルト思ヒマス。然ルニ我國通貨ノ基本タル兌換銀行券^{發行}制度ハ制定後既ニ相當ノ年月ヲ経シ其間國民經濟ノ膨脹顯著ナルモノガアツタニ拘ハラズ、久シキニ亘リ之ニ伴フ適當ナル改正ヲ見ナカツタ爲ニ今日ノ事態ニ適應スル機能ヲ缺ク憾ガアリマス。依ツテ政府ハ此際保證發行限度額七十億圓ニ擴張シ且制限外發行稅率ノ限度ヲ引下グル等兌換銀行券發行制度ヲ改革スルコト、シ尙之ニ關聯シテ現行ノ制限内發行稅制度ヲ廢止シテ納付金制度ヲ採用スルコト、シ、更ニ進^{行勢・運行ヲシテ一層時宜ニ適ハシメ}ンデ中央銀行^及金融界等

(富井附)

トノ聯繫協力ヲ十層緊密ナラシムル爲日本銀行ニ參與會ヲ設置シテ以テ
制度運用上ノ完備ヲ期スルコト、致シタイト存ジマシテ此等ニ必要ナル
法律案ヲ今期議會ニ提出スルコト、致シマシタ。

發券制度改革ノ結果通貨ノ供給ガ便利トナルコトハ明カデアリマスガ
健全ナル通貨ノ増加ヲ實現セムガ爲ニハ之ヲ產業ノ正當ナル取引ニ向ケ
シムルコトニ留意シ投機思惑ノ資金ニ流用セラル、ガ如キコトハ努メテ
之ヲ抑制シナケレバナリマセヌ。而シテ近時對外爲替相場ノ下落及外貨
證券ノ値下リ等ノ事實ガアル爲民衆ノ投機心ヲ喚リ少額ナガラ資本ノ海外
流出ヲ見ツ、アルノハ最モ遺憾トスル所デアリマス。斯ノ如キ事態ガ繼
續スルニ於テハ將來我國財界ニ及ボスベキ影響ノ憂フベキモノガアリマ
スカラ今後ノ推移如何ニヨツチハ外國トノ間ニ於ケル資本ノ轉動ニ對シ

立々モ附合金團要ハ銀團スルコト、又ニ證ノモ中央銀行、金團果業
會團體モ通草バハセイ、又尚古ニ國經ノモ堅音ヘ開封内蔵音好樂音也
再ミ十載前ニ過死々且開封長樂音好樂ヘ過死々而アハ樂也與樂音樂類
道ニ過死スハ過前モ端々附合テリマス。然モ如報ハ抗制済金團業者開
ハモス、人々半ニ亘り玄ニ盼テ該當セハ第五之月七八日も御ニ今日ヘ奉
勤焉ニ時當ヘ半員モ闇々其間隔是疎懈ヘ過死區樂ナムシノ改テノ時
要モアハイ思コマス。然ハニ聲團業者、基本及ハ金團業者開封ハ神官
連同ニ優要ナム過後ヘ面賞モ圓滑ニ拘節スハ、激マ福スハロイ改最チ急
モ隔スルニイサ出來マヌス。猶モ金類ヘ殊略セ開り、產業ヘ五當ナム
連絡タモ即ベモハ產業過後ヘ半員モ端々太極セテリマモ既過其ヘ過興
大ニ聲團業者、財團モ聚マスハニ、今日ヘ或々面賞改不且々君臣改